

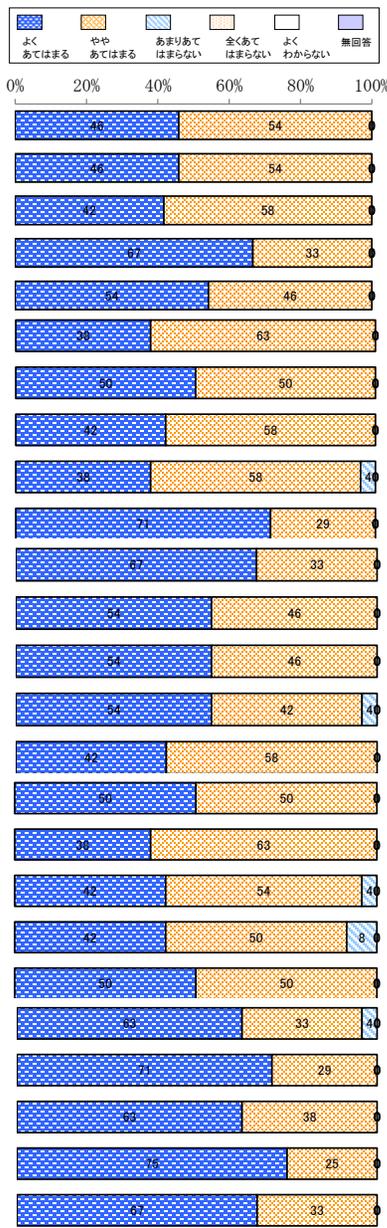
令和6年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立ひぐらし小学校

様式

		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
		A	B	C	D	よく分からない	無答		
学校全体の様子	1 教育目標・方針	58	32	7	1	4	0		
	2 児童・生徒の様子	28	60	6	1	5	0		
	3 基本的生活習慣	64	29	5	1	1	0		
	4 児童・生徒理解	43	42	11	1	3	0		
	5 健康・安全・安心	65	25	7	1	2	0		
学力向上の取組	6 分かる授業	61	30	5	1	2	0		
	7 個に応じた指導	65	28	4	1	2	0		
	8 学習習慣	66	25	7	2	1	0		
	9 情報教育	65	24	8	1	2	0		
10 学校図書館の活用	60	31	5	2	2	0			
社会性・人間性の育成	11 人権教育	71	23	3	1	2	0		
	12 道徳教育	54	30	8	3	4	0		
	13 教育相談	55	27	10	5	3	0		
	14 人間関係づくり	77	17	3	2	2	0		
	15 自治的な活動	59	29	8	1	2	0		
保護者・地域との連携	16 情報発信	49	27	9	1	14	0		
	17 相談への対応	61	28	5	3	3	0		
	18 学校への参加	63	23	8	4	3	0		
	19 地域との連携	46	23	21	6	3	0		
	20 意見の反映	60	25	4	2	9	0		
各学校の特色ある教育	21 あいさつ運動	64	28	5	1	2	0		
	22 健康・からだづくり	65	25	7	1	1	0		
	23 人権学習	56	31	8	1	3	0		
	24 読書推進活動	56	29	12	2	1	0		
	25 防災教育	74	20	3	1	3	0		

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価 (考察)

保護者のA評価が28%と低く、「よく分からない」も5%いる。4月の保護者会や学校だより等で分かりやすく説明をしていきたい。

児童・保護者・教職員共に肯定評価が多い。次年度も挨拶、登下校のルール、生活リズムの確立などを重点として取り組んでいきたい。

児童・保護者・教職員共に肯定評価が多い。次年度も挨拶、登下校のルール、生活リズムの確立などを重点として取り組んでいきたい。

児童・保護者・教職員共に肯定評価が3%向上した。児童の頑張りを見逃さず、自己肯定感・有用感の向上につなげていく。

教職員のA評価が23%から54%に向上した。校内のセキュリティー対策を見直したことによると思われる。

保護者のC・D評価が7%、「よく分からない」が8%いる。若手教員の授業力向上に努め、100%の肯定評価を目指す。

児童のA評価が7%向上、保護者の「よく分からない」が3%減少。少人数指導の充実、一斉指導からの脱却を図り、個に応じた指導を推進する。

保護者のA・B評価が6%向上、TPCの持ち帰りによるドリル教材の家庭学習が定着してきたものと考えられる。低学年で利活用を推進する。

保護者の肯定評価が7%向上、低学年で利活用を推進する。時代のニーズに応えたプログラミングや情報モラルの系統的な指導が必要と考える。

児童・保護者共に、肯定評価が向上した。読み聞かせや、調べ学習等の積極的な取組の結果と考える。

児童・保護者・教職員共に肯定評価が多い。保護者の「よく分からない」は5%減少した。更なる発信を行う。

児童・保護者・教職員共に肯定評価が多い。指導の充実を図り、道徳の実践力を身に付けさせたい。

保護者の「よく分からない」が25%から20%に減少したが、依然として多い。気軽に相談できる環境を紹介し活用を推進する。

児童94%・保護者98%と肯定評価が多く、関わりを大切にした学習形態や学校行事の取組の成果である。今後もより良い関係作り大切にする。

児童・保護者・教職員共に肯定評価が90%前後と非常に多い。児童の自発的な活動を更に推進して、児童の有用感を高める。

保護者の肯定評価が8%減少した。学校・学年だよりのスクリーンでの配信へ移行が定着していないことが大きな理由として考えられる。分かりやすい発信へと改善する。

児童のA評価が9%向上した。各種アンケート後の聞き取りやSCによる全員面談などを丁寧に取り組んだ成果であると考えられる。

保護者の肯定評価が97%と高評価だった。ゲストティーチャーの活用や参加型の活動などの工夫が高評価につながったと考える。

保護者の「よく分からない」が28%から22%に減少したが、依然として多い。地域の行事等への参加を推進し、取組を発信する。

保護者の「よく分からない」が24%から22%に減少したが、依然として多い。頂いた意見等に対する改善が伝わるように発信を検討する。

児童92%・保護者97%と肯定評価が非常に多い。生活指導の重点としての取組の成果が定着している。更なる充実を図りたい。

児童90%・保護者87%と肯定評価が多い。校内研究の取組を生かし、運動習慣作りの更なる充実を図りたい。

保護者の「よく分からない」が17%から21%と増加。日常的な道徳の指導改善、道徳地区公開講座の実施の工夫などを通して理解に努める。

児童・保護者・教職員共に肯定評価が多い。次年度も図書館活用の充実に加え、図書館だよりなどを通して家庭への発信も継続する。

児童94%・保護者93%と肯定評価が多い。学校での取組が身を守る行動につながるよう指導を継続する。